

疾患別服薬指導ガイダンスデータ ベースの開発とその利用



ファーマシーフォーラム2007

2007年11月11日



目次

1. 既存服薬指導ガイダンスデータベースについて

- 薬剤別服薬指導ガイダンスデータベース
- コンプライアンス服薬指導ガイダンスデータベース

2. 新規データベース開発の目的と方法

3. ガイダンスデータベースを用いた服薬指導の流れ

4. ガイダンスデータベースの活用とまとめ



2. 新規データベース開発の目的と方法

2-1. 開発の目的

- かかりつけ薬局としての、特に慢性疾患患者などに対する総合的な薬物治療管理の実践 への支援
- 現行のデータベースに加え、疾患を支点とした服薬指導ガイダンスデータが必要
- 疾患ごとの問題について、POSに基づいた薬物治療管理と指導、及びSOAP形式の薬歴記載を支援
- 電子薬歴での運用が可能



2. 新規データベース開発の目的と方法

2-2. データ作成の過程概要

1. 薬剤師が服薬指導管理を行う上で必要となる、疾患に関する情報の収集とデータ化
2. 服薬指導場面で疾患ごとに想定されるプロブレムの立案と薬物治療管理の目標の設定
3. プロブレムの解決手段として、**指導管理プラン(P)**に基づいた**S情報**(自覚症状など)や**O情報**(観察所見、検査データなど)の収集、それに対する**A情報**(評価・指導)、**次回の指導管理プラン(P)**までをガイダンスできるよう構造化
4. 服薬指導時の支援ツールの追加



ガイドンスデータベースを用いた服薬指導の流れ

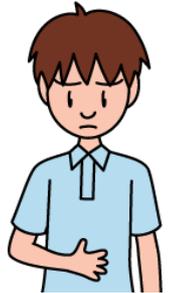
(1) プロBLEM解決のためのプラン選択



〇月〇日: Yさん来局時の対応



薬剤師: 今日では胃酸の分泌を抑える薬がでていますがいかがされましたか？



Yさん: 胃の調子が悪くて、検査をしたんですが、胃潰瘍らしいんです。症状が治まったらピロリ菌の除菌をしましょうと言われたんですが……



消化性潰瘍

プロBLEM #1. 消化性潰瘍に関する病態把握と薬物治療管理

<input checked="" type="checkbox"/> プラン1	消化性潰瘍の自覚症状を確認する。	OP
<input type="checkbox"/> プラン2	検査データを確認する。	OP
<input type="checkbox"/> プラン3	副作用を確認。	OP
<input type="checkbox"/> プラン4	消化性潰瘍の説明を行う。	EP

プロBLEM #2. H.pylori陽性潰瘍に関する薬物治療管理

プロBLEM #3. 消化性潰瘍に関する自己管理

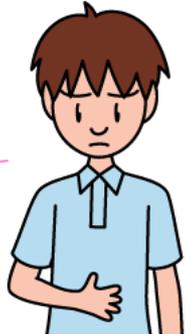


ガイドンスデータベースを用いた服薬指導の流れ

(2) プランよりS/O情報の選択



薬剤師: そうですね、ピロリ菌の検査もされたんですね。
今日から飲まれる薬の効果を確認したいのですが、今はどんな症状がありますか？



Yさん: 食事の後胃のあたりがうずくように痛みます。
市販の胃薬を使ってましたが、最近痛みが強くなって……、胸やけもします。



<input checked="" type="checkbox"/> (1) 自覚症状がある。 <input type="checkbox"/> 心窩部(みぞおち)痛 <input type="checkbox"/> 上腹部痛 <input checked="" type="checkbox"/> 胸やけ <input checked="" type="checkbox"/> 胃痛(にぶい/焼けるような <u>うずくような</u> /刺すような) <input type="checkbox"/> げっぷ <input type="checkbox"/> 胃部不快感 ...	S
<input type="checkbox"/> (2) 自覚症状により、QOL不良の可能性。	O
<input type="checkbox"/> (3) 自覚症状の経過観察が必要。	O
<input type="checkbox"/> (4) 自覚症状はない。	S

3. ガイダンスデータベースを用いた服薬指導の流れ

(3) S/O情報からのA情報(評価・指導)選択と次回指導プラン



薬剤師: お薬をきちんと飲むことで症状は改善されると思います。完治するには数週間以上かかるので決められたとおりに服薬して下さい。
何か気になることがあったらいつでも連絡して下さいね。



Yさん: わかりました。



S: 消化性潰瘍による自覚症状がある。

- A1: 自覚症状について説明。
- A2: 薬物療法により症状は改善されるが、完治するには数週間以上かかるので決められたとおりに服薬するよう説明。

OP1: 自覚症状の改善が見られるかを確認。

OP2: 継続してコンプライアンスを確認。

次回の指導プランへ



3. ガイダンスデータベースを用いた服薬指導の流れ

* 次回以降の指導管理プラン

初回の指導時に選択した次回指導管理プランとその他のプラン

【消化性潰瘍】 次回以降の指導管理プランを含んだデータ表示		
#1. 消化性潰瘍に関する病態把握と薬物治療管理		
1.	消化性潰瘍の自覚症状を確認する。	OP
2.	検査データを確認する。	OP
3.	副作用を確認する。	OP
4.	消化性潰瘍の説明を行う。	EP
5.	自覚症状の改善が見られるかを確認する。	OP
6.	継続的に、消化性潰瘍に関する検査結果を確認する。	OP
7.	QOLが改善しているかどうかを確認する。	OP
8.	継続してコンプライアンスを確認する。	OP
9.	処方変更された薬剤について確認し説明する。	EP
10.	継続して副作用の発現や体調の変化を確認する。	OP

初回指導より表示 (rows 1-4)

初回指導時に選択した次回プラン (rows 5-8)

二回目以降の指導より表示 (rows 9-10)

3. ガイダンスデータベースを用いた服薬指導の流れ (4) A情報と指導支援用参照メモ・患者向け情報

Yさん: なんかピロリ菌の除菌って先生に言われたけど、胃にも菌がいるんですか？



#2. H.pylori陽性潰瘍に関する薬物治療管理

EP: H.pylori菌と消化性潰瘍との関連について説明する。

O: H.pylori菌と消化性潰瘍についての説明が必要。

A1: H.pylori菌について説明。

ピロリ菌
とは

A2: H.pylori菌と消化性潰瘍について説明。

H.pylori菌と消化性
潰瘍 参照用メモ

消化性潰瘍と除菌

A3: H.pylori除菌療法について説明。



3. ガイダンスデータベースを用いた服薬指導の流れ

(5) 薬剤師参照用メモ・患者向け情報

【患者向け情報】

ピロリ菌
とは

ヘリコバクター・ピロリ菌とは

ピロリ菌

- 胃の粘膜表面
- 胃の粘膜の細胞間

に入り込んで、胃酸の影響を和らげながら生息しています。

水、食物、手指などから
人⇒人に感染します。

★消化性潰瘍
に大きく関与
しています。

- わが国での感染率は50～60%
- 高齢者では8割が感染者です。



【薬剤師参照用メモ】

H.pylori菌と消化性潰瘍 参照用メモ

<H.pylori菌と消化性潰瘍>

- (1) ピロリ菌に感染している人は、十二指腸潰瘍や胃潰瘍に3～4倍なりやすい。
- (2) 十二指腸潰瘍患者の90～100%、胃潰瘍患者の70～80%がピロリ菌に感染している。
- (3) 日本人では、潰瘍のない人でも、50歳以上では70～80%がピロリ菌に感染しており、潰瘍になるかどうかは生活習慣やストレスなど、ほかの原因も関係していると考えられている。
- (4) ピロリ菌陽性の潰瘍の方は、ピロリ菌を除菌できれば、潰瘍の薬を毎日飲まなくても潰瘍がほとんど再発しなくなる。
- (5) 一方、除菌しない場合には、潰瘍患者の約半数以上で潰瘍が1年以内に再発する。



3. ガイダンスデータベースを用いた服薬指導の流れ (6) 参照用メモ・患者向け情報からの指導



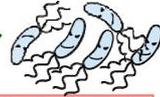
薬剤師:ピロリ菌は胃の粘膜に生息していて、日本人の半数以上が感染しています。胃潰瘍や十二指腸潰瘍の大きな原因の一つとわかってきました。

症状が落ち着いたら、ピロリ菌の除菌をするとのことですので、成功すれば潰瘍の再発はほとんどなくなります。その時は、除菌するお薬についてまた説明させていただきます。



消化性潰瘍と除菌

ヘリコバクター・ピロリ ~消化性潰瘍と除菌~



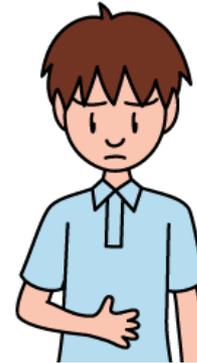
ピロリ菌感染診断

- 胃潰瘍の方の約 65~80%
- 十二指腸潰瘍の方の約 90%

ピロリ菌感染陽性



● **ピロリ菌の除菌**により、再発を繰り返す潰瘍の多くが治っています。



Yさん:
除菌すれば、潰瘍になりにくくなるんですね……

3. ガイダンスデータベースを用いた服薬指導の流れ (7)薬歴への記載

薬歴記載サンプル

Rp. パリエット錠10mg 1錠 分1 朝食後

#1. 消化性潰瘍に関する病態把握と薬物治療管理

S	<u>胃潰瘍らしい</u> <u>症状が落ち着いたらピロリ菌の除菌をしましょうと言われた</u>
OP	消化性潰瘍の自覚症状を確認する。
S	自覚症状がある。 胃痛(うずくような) 胸やけ <u>食後痛</u> <u>OTC使用していた</u>
A	薬物療法により症状は改善されるが、完治するには数週間以上かかるので決められたとおりに服薬するよう説明。 <u>気になる症状が現れた場合伝えること。</u>
OP	自覚症状の改善が見られるかを確認する。

黒字: ガイダンスデータベースの選択による記載

#2. H.pylori陽性潰瘍に関する薬物治療管理

S	<u>胃にも菌がいるのですか...?</u>
EP	H.pylori菌と消化性潰瘍との関連について説明する。
O	<u>H.pylori菌陽性</u> H.pylori菌と消化性潰瘍についての説明が必要。
A	H.pylori菌について説明。H.pylori菌と消化性潰瘍について説明。
EP	<u>H.pylori菌除菌時に除菌療法について説明する。</u>

インタビューや指導内容は必要に応じて追記する



4. ガイダンスデータベースの活用とまとめ

- I. 疾患別ガイダンスデータの利用により、薬剤師が薬学的見地から患者の疾患に関する問題に関与することで、薬物治療効果の向上が期待できる
- II. (1)情報収集
(2)問題の明確化
(3)問題を解決するための計画・指導
(4)計画・指導の実行
といったPOSのプロセスに沿って薬物治療管理をサポート
(SOAP形式での薬歴記載が可能)
- III. 既存データベースとともに、電子薬歴等システムでの運用により、薬剤師業務の標準化と効率化に寄与することが可能となる

服薬指導ガイダンスデータ作成 疾患名一覧

● 糖尿病	● 脂質異常症
● 消化性潰瘍	● 高尿酸血症・痛風
● 気管支喘息	● 慢性頭痛
● 骨粗鬆症	● 便秘
● 高血圧	● アトピー性皮膚炎